

大地の恵みをじかに感じる

西保育園でブドウの収穫

10月8日、西保育園の5歳児クラスの園児14人が、園庭に植生しているブドウの木に実ったナイアガラ約50房の収穫を行いました。同園では、園児たちの目の前で大きく実っていくブドウを見て、収穫して、食べることで大地の恵みを感じ、食の大切さを学んでほしいと、30年以上前から園庭にあるブドウの木の栽培を続けてきました。収穫後は穫ったブドウを試食。参加した園児たちは、「楽しかった。すっぱいけどおいしい〜！」と元気に話していました。この日収穫したブドウは、おやつとしてすべての園児に振る舞われました。



▲自分たちでブドウを収穫し、試食する園児たち

県管理道路の清掃や美化活動に尽力！

小原大熊自治会に知事感謝状

10月9日、県が実施している「みやぎスマイルロード・プログラム」の「スマイルロードサポーター」に認定され、県管理道路の清掃や美化活動を長年にわたり行ってきた「小原大熊自治会」に知事から感謝状が贈られました。この日は、石川光博大河原土木事務所長が「小原大熊自治会」の代表の高橋敏男さんに感謝状を手渡し、「長きにわたる道路愛護活動に御礼申し上げます」とあいさつ。風間市長は、「活動中に気付いたことがあれば、すぐに連絡してください。これからもお力添えをお願いします」と話しました。



▲感謝状を受け取り記念撮影を行う高橋敏男さん（中央）

趣のあるギャラリーで展示会

「第4回みんなのてんじかい」

9月21日から23日の3日間、白石の芸術愛好家でつくる白石アーティストプロジェクト(SAP・大泉拓也代表)主催の「みんなのてんじかい」が壽丸屋敷で開催されました。この展示会は、アートでまちを元気づけようと、きくちのぶひろさんを中心に企画され今回で4回目。今回の展示会には、7つの個人・団体から約200点の作品が出品されました。きくちさんは、「個展などに行かなくても、素晴らしい作品を作る人たちが身近にいることをもっとたくさんの人たちに知ってもらいたいです」と熱い思いを話してくれました。



▲壽丸屋敷と作品の調和を楽しむ来場者たち

弥治郎こけし村をPR

こけし村ふれあい祭り

9月29日、「こけし村ふれあい祭り」(弥治郎こけし業協同組合ほか主催)が弥治郎こけし村で開催されました。こけし工人と観光客などが触れ合いを深め合い、「弥治郎こけし村」のPRを図りながら地域活性化に結び付けようと企画され、今年で8回目を迎えるこのまつり。この日は約830人が会場を訪れ、工人の指導でこまの絵付けを楽しんだり、地元主婦などで行く「弥治郎ダンス」などのステージ発表を楽しんだり、鎌先温泉のペア宿泊券が当たるお楽しみ抽選会に参加したりするなど、工人や地元の人たちなどと交流を深めていました。



▲楽しそうにこまの絵付けを体験する子どもたち

自分たちの地域は自分たちで守る

仙南圏域婦人防火クラブ

9月19日、仙南圏域の婦人防火クラブ員研修会がホワイトキューブで開催されました。研修会には、仙南圏域の市町から約400人が参加。この日は、「東日本大震災と防災・減災について」東北福祉大学学生支援センターの鶴橋徹さんを講師に招き、日ごろの備えに必要な知識と技術、地域でできる日ごろの備え、災害時の行動などを学び、参加者は熱心に耳を傾けていました。

研修会の最後は、「自分たちの地域から火災を出さない」「自分たちの地域は自分たちで守る」と防火宣言を唱和。地域を守るための気持ちをあらたにしていました。



▲防火宣言を唱和する参加者たち

サッカーって楽しいね

はるかぜ保育園でベガルタ仙台サッカー教室

10月9日、ベガルタ仙台ふれあいサッカー教室がはるかぜ保育園で開催されました。サッカー教室には、同園の0～5歳児89人が参加。サッカー元日本代表の平瀬智行さんやクラブマスコットのベガッ太くとサッカーを通してふれあいました。サッカーのルールを学んだ後に行われた試合では、平瀬さんの華麗なテクニックに園児たちは大喜び！試合に参加した園児たちは、「ボールを蹴るのが楽しかったです」と笑顔で話してくれました。教室が終わると、「ありがとうございました」と元気にあいさつ。楽しい時間を過ごしていました。



▲平瀬さんからボールを奪おうと一生懸命に走る園児たち

環境問題を考えるきっかけに

仙南法人会がエコキャップ回収箱などを寄贈

10月4日、公益社団法人仙南法人会青年部の森建人部会長が市役所を訪れ、エコキャップ回収箱を風間市長に手渡しました。同会は、ペットボトルのキャップを集め、売却益で発展途上国の子どもにワクチンを送る活動を展開。森部会長は、「児童や生徒が環境問題を考えるきっかけになれば」と話していました。市に寄贈された16個の回収箱は市内の全小中学校に設置します。またこの日は、鬼小十郎まつりなどのイベントで活用してほしいと、大槻泰弘副部会長が忍者の衣装20着を風間市長に手渡し、市長が同会に感謝の言葉を述べました。



▲右から同会青年部の大槻副部会長と森部会長

子どもたちに笑顔を！

破牙神ライザー龍が第二幼稚園を訪問

10月10日、NPO法人HERO(丸山沙織代表理事)のオリジナルヒーロー「破牙神ライザー龍」が第二幼稚園を訪れ、3～5歳児クラスの108人とふれあいました。

「破牙神ライザー龍」は、東日本大震災で被災し、避難所生活が続く子どもたちの「ヒーローに会いたい!」という願いから誕生したもの。園児たちの前に「破牙神ライザー龍」が登場すると大きな歓声が沸きました。同法人は、被災地の保育園や幼稚園などを無償で訪問。昨年の訪問件数は290カ所にのぼり、被災地の子どもたちに元氣と笑顔を届けています。



▲破牙神ライザー龍とふれあう園児たち